

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成21年7月2日(2009.7.2)

【公表番号】特表2008-545457(P2008-545457A)
【公表日】平成20年12月18日(2008.12.18)
【年通号数】公開・登録公報2008-050
【出願番号】特願2008-511779(P2008-511779)
【国際特許分類】

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月13日(2009.5.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外科のジグに取り付けるように適合してなるスタイラス組立体であって、スタイラス組立体は、第 1 及び第 2 のアームを有する本体を備え、アーム間の空間は外科のジグの一部を受け入れ、スタイラス組立体は、本体に対して調節可能に取り付けられたスタイラスを備え、スタイラス組立体は、ロック部材を備え、ロック部材をアンロック位置からロック位置へと操作すると、本体が外科のジグにロックされ、スタイラスが本体に対してロックされることを特徴とするスタイラス組立体。

【請求項 2】

保持部材が、本体の第 1 のアームから外方へ延びていることを特徴とする請求項 1 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 3】

保持部材は、その遠位端に、拡大した保持頭部を有していることを特徴とする請求項 2 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 4】

スタイラスは、スロットの付いた中央部分を有していることを特徴とする請求項 3 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 5】

スタイラスにおけるスロットの付いた中央部分は、保持部材に取り付けられ、ロック部材のアンロック位置において、本体に対して、スタイラスの並進及び回転運動を可能にすることを特徴とする請求項 4 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 6】

第 1 及び第 2 のアームを有する二叉に分かれたロック要素は、保持部材に取り付けられていることを特徴とする請求項 5 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 7】

ロック要素の第 1 のアームに、開口部が貫設されていることを特徴とする請求項 6 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 8】

ロック要素における第 1 のアームの部分は、保持部材を開口部に通して、本体とスタイラスとの間に配置されていることを特徴とする請求項 7 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 9】

ロック要素における第 2 のアームは、本体の第 1 のアームと第 2 のアームとの間の空間に延入していることを特徴とする請求項 8 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 10】

本体の第 1 のアームの部分は、ロック要素における第 1 及び第 2 の二叉のアームの間の空間に位置していることを特徴とする請求項 9 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 11】

ロック要素における第 2 のアームと、ロック要素の第 1 及び第 2 のアームの間の空間に位置してなる、本体における第 1 のアームの部分との間に、第 1 のクリアランスが設けられていることを特徴とする請求項 10 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 12】

保持部材における保持頭部の下側と、スタイラスにおけるスロット部分との間に、第 2 のクリアランスが設けられていることを特徴とする請求項 11 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 13】

第 1 のクリアランスは第 2 のクリアランスに比べて大きくなっていて、それにより、スタイラスが、拡大した保持頭部の下側と、ロック要素の第 1 のアームとの間にクランプされるまで、保持部材の遠位端へ向けての保持要素の動きを許容することを特徴とする請求項 12 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 14】

ロック部材はカムであることを特徴とする請求項 1 乃至 13 の何れか 1 項に記載のスタイラス組立体。

【請求項 15】

カムは、本体における第 2 のアームに、偏心してピボット式に取り付けられていることを特徴とする請求項 14 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 16】

カムレバーがカムに取り付けられ、カムの回転を可能にしていることを特徴とする請求項 15 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 17】

ロック部材がアンロック位置にあるとき、カムレバーを受け入れるためのチャンネルが、本体に設けられていることを特徴とする請求項 16 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 18】

レバーがアンロック位置にあるとき、カムレバーの端部部分が、チャンネルから延出していることを特徴とする請求項 17 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 19】

ロック部材がアンロック位置からロック位置へと動いたとき、本体における第 1 及び第 2 のアームの間の空間に、カムが延入することを特徴とする請求項 18 に記載のスタイラス組立体。

【請求項 20】

本体には、第 1 及び第 2 のアームの間にストッパが設けられ、ストッパは、第 1 及び第 2 のアームの間に配置された、外科のジグの部分の縁部に対して位置していることを特徴とする請求項 1 乃至 19 の何れか 1 項に記載のスタイラス組立体。

【請求項 21】

スタイラス組立体は、ステンレス鋼から作られていることを特徴とする請求項 1 乃至 20 の何れか 1 項に記載のスタイラス組立体。

【請求項 22】

スタイラス組立体は、8 ~ 12 mm の幅であることを特徴とする請求項 1 乃至 21 の何れか 1 項に記載のスタイラス組立体。